

# 学校法人北星学園 中長期計画

## ～グランドデザイン 2020－2040～

### 《概要》



【創設者サラ・C・スミスと校花のライラック】



Hokusei Gakuen  
学校法人 北星学園

2020年3月

---

---

**学校法人北星学園 中長期計画**  
～グランドデザイン 2020－2040～  
《概要》の構成

---

---

1. 学校法人北星学園 中長期計画

～グランドデザイン 2020－2040～の策定にあたって

2. 学校法人北星学園の Cornerstone

3. 学校法人北星学園 中長期計画の進捗・達成状況の確認等

4. 学校法人北星学園 教学、経営・管理及び財政マネジメント

5. 各学校の使命・目的及び教育目標（建学の精神・ミッション）

I 北星学園大学・北星学園大学短期大学部

II 北星学園女子中学高等学校

III 北星学園大学附属高等学校

IV 北星学園余市高等学校



# 1. 学校法人北星学園 中長期計画

## ～グランドデザイン 2020～2040～の策定にあたって

理事長 大山 綱夫

「グランドデザイン（中長期計画）」は、学校法人を永続的に経営していくためには欠くことのできないものです。また、学園各校がその使命・目的のもと、その行動計画を明確にし、将来あるべき方向に向けた意思決定を行い、教育研究内容の質を維持・向上させることを目的とするものです。

策定した「グランドデザイン（中長期計画）」は、各学校・部局が、創設時の理念をどう継承しているか（原点）、現状をどう捉えているか（現在）、将来どうありたいと考えているか（未来）等を言語化し、共通点や差異点を明らかにすることを目的に2019年2～4月に実施したインタビューをキック・オフとして取りまとめたもので、2020年から向こう20年間で取組むアクション・プラン（行動計画）です。

アクション・プランの実行プロセスにおいては、2040年に達成する“Cornerstone”（目標とするるべき姿）に対し、2020年から2029年の10年間と、2030年から2039年の10年間の2期に分け、目標達成過程の確認ポイントとして、2030年までに達成する“Milestone”（中間目標）を設定します。

さらに、それぞれの10年間を5年ごとに分け、「2025年までに達成する目標」、「2035年までに達成する目標」とし、数値目標を設けて設定します。

また、単年度の事業計画を作成し、事業報告を用いて「グランドデザイン（中長期計画）」と「単年度の事業計画」の進捗管理を行います。実施状況を点検・評価し、必要な修正や見直し、改善を図ることで、実態に即した推進を目指します。

並行して、「20年後の2040年には、どういう学園でありたいのか。そのために何に取組み、どう行動していくのか」について、広く教職員・役員等で協働しながら、追究していくこととします。

2030年という年は、北星学園の創立者サラ・C・スマスが、51年に及ぶ日本での教育と宣教の業を終え帰国して100年となる年です。また、2037年には、北星学園創立150周年を迎えます。

こうした節目の年を経て、2040年までの「グランドデザイン（中長期計画）」の実現に向けては、すべての教職員・役員等が同じ認識・理解に立ち、学校・部局の枠を越えて一体となって推進していくことが重要です。

「グランドデザイン（中長期計画）」で掲げた建学の精神、学園・学校ごとのミッション（使命・目的及び教育目標）を達成・具現化するための取組みを、2020年3月から開始します。

(参考)

私立学校法（施行日2020年4月1日）が改正されました。第24条（学校法人の責務）「学校法人は、自主的にその運営基盤の強化を図るとともに、その設置する私立学校の教育の質の向上及びその運営の透明性の確保を図るよう努めなければならない。」との条項が新設されました。また、第45条の2として、文部科学大臣所轄の学校法人（北星学園）の「事業に関する中期的な計画の作成」が義務化されました。

私立学校法改正の端緒となった「学校法人制度の改善方策について（2019年1月7日）」の提言（国の大学設置・学校法人審議会学校法人分科会の下に設置された学校法人制度改善検討小委員会）には、「学校法人は公教育を担う法人として安定した経営が求められる。特に、文部科学大臣所轄の学校法人については、高度人材の育成の機関として、求められる教員・施設設備も多く、また、専門分化が進み、専攻により転学が容易ではない状況を踏まえると、中長期的視点に立った計画的な経営が求められる。」とあります。



## 2. 学校法人北星学園の Cornerstone

- ★ 2040年に向けた「学校法人北星学園の Cornerstone」として、次の項目を確認しました。

### 【建学の精神】

キリスト教に基づく教育

### 【ミッション】 \* 北星学園の創立者サラ・C・スミスが校務日誌に記した「基本理念 (Mission)」

The fundamental idea of a school is to educate in the various branches of useful knowledge and thus fit the pupils for the various duties and responsibilities of active life. The religious and spiritual influence brought to bear on the pupils is the most important thing in the school. Both of these ideas may and should be realized in a good school.  
およそ学校の根本理念は、生徒にさまざまな分野での有用な知識を教え、生徒が実生活においてさまざまの義務と責任を全うしうるように教育することにある。また、生徒に及ぼす宗教的靈的影響は、本校において最も重要なものである。この二つの理念は、良い学校を作るためには実現されなくてはならないものなのである。〔翻訳の一例／出典：北星学園百年史〕

### 【学校法人北星学園の Cornerstone : 2040 年へ向けて】

1. キリスト教に基づいた教育を行っていく。
2. グローバルなブランドイメージをさらに高め、確固たるものにする目指す。
3. 総合学園として、社会から求められ、“選ばれ続ける” 学校法人を目指す。
4. ガバナンス（経営体制）の強化を推進する。
5. 健全な財政基盤の確立を目指す。

### 【北星学園として育む人物像】

基本：自己を確立し、他者を尊重することで人と向き合い、寄り添える

『人間性』『社会性』『国際性』を持ち合わせた人。

1. 自らの役割を全うする強さ、知識と知恵と教養、そして他者と共生できる『人間性』を持ち合わせた人。
2. 様々な問題が溢れ、解決方法が見えづらい世の中において、個性や自分らしさを発揮し、困難を抱える人を支える役割を担える『社会性』を持ち合わせた人。
3. 「新しい価値創造」を求めて、地域社会に貢献する力を有し、世界各地で活躍できる『国際性』を持ち合わせた人。

### 【掲げた人物像に育むために養いたい力】

基本：しなやかな精神的骨格を形成すること。

1. 本質を見抜く力（課題発見・探究・知識・教養・判断力）
2. 未来を描く力（ビジョン設定・計画立案・表現力・創造力）
3. 未来を動かす力（自立・自発性・協調性・コミュニケーション能力）



### 3. 学校法人北星学園 中長期計画の進捗・達成状況の確認等

1. 2020年から2029年の10年間と、2030年から2039年の10年間の2期に分け、それぞれの10年間をさらに5年ごとに分け、「2025年までに達成する目標」「2035年までに達成する目標」を設定します。また、5年ごとに目標を見直します。
2. 「2025年までに達成する目標」「Milestone（2030年中間目標）」「2035年までに達成する目標」については、2020年5月中を目途に策定し、学園内に周知及び学園外に公表します。
3. 中長期計画の進捗・達成状況の確認については、特別な部会などは設置せず、学園総合企画委員会で行います。
4. 各学校の中長期計画（最終報告）はそれぞれ尊重し、各学校において進捗・達成状況を確認します。まずは、各学校における「進捗状況の確認組織体制」を、学園総合企画委員会に報告します。また、「報告書フォーム」を用いて進捗・達成状況を学園総合企画委員会に報告します。
5. 各学校以外の委員会等組織においても、それぞれの計画（最終報告）の進捗・達成状況を確認し、「報告書フォーム」を用いて学園総合企画委員会に報告します。
6. 学園総合企画委員会では、各学校・各委員会等からの報告を受け、学校法人北星学園中長期計画の内容と突合のうえ、進捗・達成状況を確認します。
7. 学園総合企画委員会で進捗・達成状況を確認し、進捗が著しく遅い事項や取組みに問題がある学校、委員会等組織に学園総合企画委員会から助言します（内部質保証）。
8. 「事業報告書」作成の際は、中長期計画の進捗・達成状況を反映するよう留意します。

#### 【最初の Decade-10 年間-】



#### 【次の Decade-10 年間-】



新型コロナウイルス禍により、中長期計画の進捗・達成状況の確認等について、予定通り実施できない状況となっています。情勢を勘案しながら、修正を加えていく予定です（2020年5月）。



## 4. 学校法人北星学園 教学、経営・管理及び財政マネジメント

★ 次の3課題に取組むことで中等教育部門と高等教育部門の連携強化を図り、眞の意味での“総合学園”となることを確認しました。

### 1. 教学マネジメント

◎ 次の3項目を中心に総合学園としての取組みを推進します。

[キリスト教教育体制]

1. 建学の精神・ミッションの再確認
2. キリスト教一貫教育の推進
3. 新たに取組むべき事項の整理

[総合学園としての「可視化（見える化）」]

1. 高大連携の外部に対する可視化
2. 教育実践・研究成果の可視化
3. 国際交流・国際教育の可視化
4. 社会連携・地域連携の可視化

[教育連携体制]

1. 学園としての一貫教育の推進
2. 中等教育部門間の連携推進

### 2. 経営・管理マネジメント

◎ 責任と権限の明確化によりガバナンスを改善・強化し、積極的な情報公開と経営状況の「見える化」を推進します。

1. 理事会組織運営体制の再確認
2. チャップレン・宗教主任のあり方の再確認
3. 人事制度等に係る事項のブラッシュアップ
4. 事務組織に係る事項のブラッシュアップ
5. リスクマネジメント体制の構築

### 3. 財政マネジメント

◎ 学校法人全体の教育活動収支差額の改善と特に中等教育部門の収支均衡を目指します。

1. 独立計算方式の再確認と見直し
2. 学園としての財政運営目標の設定
3. 財政計画の立案
4. 収入構造の点検見直し
5. 支出の適正化を目指す方策の検討
6. 施設整備計画の立案



## 5. 各学校の使命・目的及び教育目標 (建学の精神・ミッション)

- ★ 2040年に向けた各学校の使命・目的及び教育目標（建学の精神・ミッション）として、以下の項目を確認しました。

### I 北星学園大学・北星学園大学短期大学部

【大学・短期大学の目指す姿【北星ブランドの確立】～2040年に向けて】

- ◎ 「北星でなければならない」と、高校生・社会から必要とされる（選ばれる）大学・短大を目指す
- ◎ 全国から入学志願者を集められるような、知名度をもった大学・短大を目指す
- ◎ 北海道・札幌と、世界・全国を結ぶハブ（拠点）大学・短大を目指す
- 目指す姿を踏まえ、これまでの北星学園（大学・短期大学）の教育エッセンス〔キリスト教に基づく人格教育、人間性・社会性・国際性の育成〕を基礎にして、情報や理数（STE(A)M）教育も加味した、新たな人文社会系の総合大学を目指す。

【具体的検討事項】

- a. 北星ブランドの復興
- b. 教育、研究の見直し
- c. 人間性・社会性・国際性の実質化
- d. 人文科学・社会科学+αの強化
- e. 社会の変化に対応し乗越える人財の育成
- 高齢化及び人口減少、格差の拡大する中、持続可能な社会をつくり支えることができる人財の輩出を目指す
- リカレント教育・生涯教育の実践を目指す

### II 北星学園女子中学高等学校

- ◎ 本校（学園）がキリスト教学校であり、創立者が残した『建学の精神』がその礎であることを再確認する。
- ◎ 創立者の教育理念を目指し実現する学校であること。
- ◎ 現在、本校（学園）が直面している歴史的な転換点へ対応する。
  - ・少子高齢化による環境変化
  - ・総人口減少による社会経済の委縮
  - ・教員希望者の減少など→学校教育の根幹を揺るがす教育全般への影響
- ◎ 経験や既知の方法を超えて次世代を見据えた教育改革に取組む。
- ◎ 改革実施のための職場環境を備える働き方改革を実現する。
- ◎ 聖書の教えを教育の基とし、公教育を担うキリスト教学校（学園）として、次の2項目を実践する。
  - ・人間が生きること・学ぶことの問いかけ
  - ・平和を求める新しい社会を造り出す女性の育成

## 《教育改革の骨子》

### ① 21世紀教育への取組み

- ・新しい時代に求められる知識の習得、学力の向上
- ・アクティブ・ラーニング、SDGs教育、商品開発授業、グローバル・スタディーズ・ラボを活用した授業の継続と発展
- ・STEAM教育、リベラルアーツ教育、IB教育、初等教育の研究と導入・実践

### ② 言語教育への取組み

- ・「21世紀教育への取組み」に必要な言語教育の継続
- ・全ての教育で教科を超えた言語教育の実践
- ・母国語としての日本語教育の研究と実践及び第二外国語導入の検討

### ③ キリスト教教育への取組み

- ・福音的聖書信仰に基づく教育を堅持継承
- ・若い世代と共に生きるキリスト教学校づくり
- ・新時代における教会との関係づくり

### ④ 女子教育への取組み

- ・新しい時代における女子教育の在り方の研究
- ・21世紀社会のイノベーションを担う女性の育成
- ・新しい時代のリーダーの養成

## III 北星学園大学附属高等学校

### 1. 本校の教育：基本方針の確認と浸透～目標：引き継がれてきた教育目標と基本方針の深化

◎ 教育目標：キリスト教の精神に根ざした他者と共に生きる 自立した市民としての人格を育む

◎ 教育方針：

- ①「共育」を理念とし、他者に聴く主体的な学びに導く
- ②「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深める
- ③「探究」することによって、学びを社会につなげる

◎ 課題と取組み

- ・方針と目標の浸透とその度合いの検証
- ・大学の見学の精神との一体感の意識
- ・ループリック評価の導入

### 2. 本校の政策：3本柱の維持と深化

① 強化指定クラブ（野球部、サッカー部、吹奏楽部、男・女バスケットボール部）

② 進学コース（220名）と、特別進学コース（35名）

③ 北星学園大学・短期大学部との高大接続

◎ 課題と取組み

- ・クラブ活動に必要な施設の整備と、働き方改革を意識したクラブ活動及び指導体制の検討
- ・クラブ活動を軸にした北星学園大学・短期大学部との高大接続の検討
- ・北星学園大学・短期大学部との英語教育を中心とした学習サポート体制の構築
- ・特別進学コースの更なる指導体制強化

## IV 北星学園余市高等学校

- ◎ 学校の使命：人の中で生きる力を育てる
- ◎ 目的及び教育目標：社会生活を営む上で必要な「人と共存する力」を、集団を基礎とした高校生活の中で育む

《学園の存続条件達成後の新たな学校体制づくり》

次に掲げる課題を総合的に検証する

- ① 「廃校報道」後の一時的な入学者増が落ち着いた後の魅力提示
  - ・基礎学力の獲得をベースに、アクティブ・ラーニングを取り入れるなど教科教育の充実を図る
  - ・組織的新規実践による教育内容充実（生徒達の体験を豊かにし、学校の魅力を打ち出す）
  - ・クラス集団づくりなどを含む生活指導の再点検
  - ・進路指導のアップデート
- ② 現在の規模に合わせた生徒数・クラス数・人員配置の検討
- ③ 下宿運営の困難さへ対応するため後志管内からの入学者獲得増を目指す

以上